

松崎天神の起源を描く 6 巻の絵巻物、箱入り

(紙本著色松崎天神縁起絵巻 6 巻 箱入)

この全 6 巻の絵巻物は、菅原道真公（845～903 年）の人生と彼が天神に神格化される話を伝えています。この 6 巻をすべて広げると、全長 75 メートルになります。ここにあるのは、1331 年の鎌倉版と呼ばれるものです。鎌倉版の巻物は神社以外で展示することは禁じられているため、ほとんど光にさらされることがありませんでした。その結果、700 年近く前の巻物ですが非常に良い状態にあります。

第 6 巻目は、防府天満宮の話のみ描かれており、1952 年の火災後に神社を完全に修復しなければならなくなった時、第 6 巻に描かれた社殿の場面は重要な参考資料となりました。絵巻物の題名の「松崎」という名前は、防府天満宮が元々、松崎神社と呼ばれていたためです。このような古い巻物に、当初の収納箱が残っていること自体、非常に珍しいことなので、題名にも箱のことが記されています。

松崎天神の起源を描く 6 巻の絵巻物（室町版）

(紙本著色松崎天神縁起絵巻)

この全 6 巻の絵巻物は、菅原道真公（845～903 年）の人生と天神に神格化された話を伝えています。この 6 巻をすべて広げると、全長 75 メートルになります。室町版の巻物は 1504 年から 1520 年にかけて作成されたものです。ちなみに元の鎌倉版は 1331 年まで遡ることができます。室町版は、神社以外で原本の巻物を展示することは禁じられているために作成されました。新しい室町版の方は多くの人々の目に触れていたため、実際には、原本よりも傷みや汚れがあります。

6 巻の内最初の 5 巻には、菅原道真公が左遷される前に、梅の木に別れを告げる話や、道真公の葬儀の時に座り込んだまま動こうとしなかった牛の話など、有名な彼の伝説が詳しく描かれています。6 巻目には防府天満宮についてのみ描かれています。

金銅宝塔

元来、このような宝塔内には仏舎利（仏の遺骨）に見立てられた水晶が安置されており、この宝塔では、瑠璃色の珠玉がお骨を表しています。周防の役人であった藤原季助は 1172 年、この 40 センチの高さの宝塔を防府天満宮に奉納しました。当時、天皇は将軍と比べて権力を失いつつあり、日本は激動の時期にありました。宝塔は、後白河法王の長寿、周防（現在の山口県）の国土豊穰、子孫繁昌を祈請するために奉納されました。日本の 12,000 社の天神神社の中で最古の宝物として知られています。

梵鐘

この梵鐘は、時を知らせるために撞かれていました。鎌倉時代（1185～1333 年）、福岡の天福禅寺で鑄造されたもので、地元の大名家大内義隆が天福禅寺から奪い神社に奉納しました。